

令和 6 年 度 (2024 年 度)

第 67 回 北 海 道 小 学 校 長 会 教 育 研 究 空 知 ・ 岩 見 沢 大 会

研 究 要 綱

- 研 究 主 題
- 副 主 題
- 分 科 会 の 趣 旨
- 研 究 の 視 点

北 海 道 小 学 校 長 会 研 修 部

令和2年度から

新研究主題 「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

全国連合小学校長会

全国連合小学校長会は、平成25年度第65回三重大会から「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を研究主題として、実践的な研究を積み重ねてきた。これまでの研究成果を受け、あらゆる分野での知識基盤社会への進展やグローバル化の進行、世界に類を見ないスピードで進む少子高齢化の社会において、小学校教育の役割と変化する時代の潮流や近未来的な課題を踏まえ、豊かな創造性やしなやかな知性を発揮し、互いの個性や絆を大切に作る社会づくりに貢献できる日本人の育成を目指す小学校教育の推進に鋭意努力してきた。

平成29年3月に告示された新学習指導要領の前文では、「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」とあり、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、その実現に向けて必要となる教育課程の基準が大綱的に定められた。

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが成人して社会で活躍する頃には我が国は、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により、社会構造等の環境が大きくまた急速に変化し、予測が困難な時代となっている。また少子高齢化が進む中で、持続可能な社会の担い手として、個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

このような急激な社会の変化の中では、一人一人が自らの能力や可能性を信じ、学習したことを生活や社会の中で課題解決に生かすことのできる力が求められる。また、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越えていく生き抜く力の育成も課題である。

こうした状況を踏まえ、これからの教育は、学校と社会とが認識を共有化し、変化が激しく未来の予測が困難な時代に向かって、これまでの研究主題「新たな知を拓き」を生かし、価値観の違いや変化を前向きに受け止めながら、自らの力で未来を切り拓き、誰もが幸福と感じられる、ともに生きる豊かな社会を創り出すことのできる人間を育成する教育を実現しなくてはならない。

この期にあたり、令和2年度からの研究主題を「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」とする。

私たちは、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童や地域の現状と課題に対して、これまでの

実践と研究の蓄積を生かすとともに、家庭や地域社会と連携して教育活動のさらなる充実を図らなければならない時を迎えている。

全国連合小学校長会は、本研究主題について日々真摯な研究を重ね、その成果を学校経営に生かすとともに、新しい課題に応える教育の推進に全力を傾注していく。また、研究に当たっては、特に次の事項を重視し、学校経営及び日常の教育活動を通して、積極的に研究・実践に努めていくこととする。

1 学校経営

校長のリーダーシップが強く求められる。

時代の変化と保護者や地域、社会の期待を的確に把握し、校長の明確なビジョンのもと、活気ある学校組織と経営体制を築き、新しい時代に求められる資質・能力を育む教育課程を実現する学校経営を推し進めていく必要がある。

2 教育課程

「社会に開かれた教育課程」の実現が求められる。

学校の創意工夫のもと、学校教育を通じて育む「生きる力」とは何かを資質・能力として明確にし、一人一人の豊かな学びを実現し、感性を働かせながら、社会や人生をよりよいものにしていく人間を育成するためのカリキュラム・マネジメントの実現が必要である。

3 指導・育成

教育課程の実現は、教職員の指導力が求められる。

教員の資質向上を担うために研修制度の在り方やOJT等の指導体制の確立、主任・主幹教諭等のミドルリーダーの育成と次世代の学校を担う管理職の発掘と育成等の方策を探っていく必要がある。

4 危機管理

安心・安全な学校を確立するために、管理職の強い危機管理が求められる。

現代の学校の危機管理は、授業が成立しない状況やいじめ・不登校問題への対応等、学校経営全般に関わる。また近年、地震や集中豪雨等の自然災害、交通事故や不審者への対応等、学校内外での危機への対応と未然防止策を常に明確にしておく必要がある。

5 教育課題

時代の変化による新たな教育課題への対応が求められる。

人権教育や特別支援教育、環境教育、食育や健康教育、キャリア教育等重要な教育課題が増えている。校長はこうした課題への問題意識と具体策を保持しながら、学校経営を推進していく必要がある。

北海道小学校長会 大会主題・副主題

「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
～ふるさとに誇りと愛着をもち ともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進～

【大会主題・副主題の趣旨】

全国連合小学校長会は、真摯に研究と実践を積み重ね、我が国の小学校教育の充実・発展と教育諸条件の整備に多くの成果を収めてきた。その成果を踏まえ令和2年度より研究主題を「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」とし、その実現を目指し取組を進めている。

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字を取って「VUCA」の時代とも言われている。また、進化した人工知能（AI）は我々の生活に深く浸透し、Society 5.0の社会では、様々な情報を適切に収集し分析して社会の発展に活用することが求められている。人としての生き方が今以上に問われる時代を目前に控え、人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下、子どもの生命・人権や貧困など、教育環境にも関わる多岐にわたる課題が顕在化している。さらに環境問題や新たな感染症の拡大、国際情勢の不安定化のような地球規模の様々な課題が存在する中、教育の果たす役割はますます重要となっている。

こうした時代を生き抜き、子どもたちが、自ら豊かな人生や社会を拓いていくためには、社会の変化や直面する問題に主体的に向き合い関わり合っていく力と同時に、他者と協働しながら問題を解決していこうとする能力が重要である。そして、子どもたちが、育ったふるさとの自然・歴史・文化を愛し、身近な地域を含めた社会に誇りと愛着をもち、地域社会とのつながりの中で学び、自らの人生や社会をよりよく変えていこうという思いをもつことは、グローバル化する社会的な課題を乗り越え未来を切り拓いていくための大きな原動力になると考える。また、教育をめぐる現状・課題を踏まえ、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」は、今後我が国が目指すべき社会及び個人の在り様として重要な概念であり、これらの相互循環的な実現に向けた取組が進められるよう方策を講じていくことが必要である

学校には、子どもたち一人一人のよさと可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成することが求められている。家庭・地域との連携・協働により、人との関わりを通して、ふるさとの自然や文化から学ぶ教育を推進するとともに、学んだことを社会の発展へと役立てていく力を育成しなければならない。そのため我々校長は、学習指導要領の理念を十分に理解し、「社会に開かれた教育課程」を実現するためのカリキュラム・マネジメントを進め、幅広い視野で教育活動を創造していかなければならない。

一方、ふるさと北海道に目を向けると、北の大地の冬は、雪に覆われ、長く厳しい寒さに包まれる。開拓時代、この自然環境は人々に多くの困難をもたらした。しかし、今では豊かな自然の中で育つ乳牛から搾られた牛乳や、豊富な水と肥沃な大地で育った米は、全国ブランドとしてその地位を築いている。農産物は安全性の高さはもとより、加工食品としても個性と新たな魅力が引き出され、全国の人気の的となっている。また、雪は観光やスポーツとしての大きな魅力となり、雪冷房としても活用され、生活を豊かにしている。先人たちの知恵と工夫と挑戦が、この厳しい自然環境を克服し、現代に恩恵をもたらしているのである。

副主題には、豊かではあるが厳しい自然を乗り越え、人との絆を大切にしながら、脈々と人の営みを紡いできた先人たちから、地域に根ざした文化や歴史などを学び、さらにそこから、自ら未来を切り拓き、自分の夢や目標の実現を目指す人材を育みたいという思いがある。

そのために、自立した個人が個性・能力を生かし、相手の価値を尊重し、多様な人々との協働を通じ新たな価値を創造していくことができる柔軟な社会の実現が求められる。こうした新しい社会の形成に向けてたくましく挑戦する子どもを育てるためには、人と人との絆を強め、支え合う共生の意識や夢と希望に満ちた活気溢れるふるさとづくりに積極的に貢献しようとする意識など、持続可能な社会の創り手としての意識を醸成することが必要である。また、環境・資源・エネルギー問題などに関するグローバルな視点を持ち、多様な他者と協働して、地域の環境・経済、少子化・人口減少、地域格差などの身近な課題についての解決策を考えようとする資質が求められる。

さらに、一人一人の個性と人と人との絆を大切にしながら、自然災害や感染症などからの復興・再生に粘り強く取り組むことができるたくましさや育むことが大切となってくる。こうした教育課題の解決や社会状況を改善していくには、子ども一人一人の能力を伸ばし、来るべき社会の担い手として必要とされる基本的な資質・能力を育む学校経営を推進していくことが必要となる。

以上のことから、第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会は、これまでの研究の成果と課題を踏まえ、大会主題の実現と追究を目指すため、副主題を「ふるさとに誇りと愛着をもち ともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」と設定し、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性を究明しようとするものである。

第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会 分科会一覧

領域	分科会	研究課題	研究の視点	発表地区
Ⅰ 学校経営	1 経 営 ビジョン	創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定と校長の在り方	(1)未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンの策定 ----- (2)学校経営ビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進	宗谷
	2 組 織 運 営	学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと校長の在り方	(1)学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくり ----- (2)組織を活性化させるための具体的方策の推進	帯広
	3 評 価 改 善	学校教育の充実を図るための評価・改善の推進と校長の在り方	(1)学校経営の組織的かつ継続的な改善に向けた学校評価の充実 ----- (2)教職員の資質・能力の向上に向けた人事評価の工夫	札幌
Ⅱ 教育課程	4 知 性 創 造 性	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進と校長の在り方	(1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進 ----- (2)知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善	旭川
	5 豊 かな 人 間 性	豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進と校長の在り方	(1)豊かな心を育む道德教育の推進 ----- (2)よりよい社会を創る人権教育の推進	胆振
	6 健やかな 体	健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進と校長の在り方	(1)生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育てる教育活動の推進 ----- (2)健康で安全な生活を営む実践力を育てる教育活動の推進	小樽
Ⅲ 指導・育成	7 研 究 研 修	学校の教育力を向上させる研究・研修の推進と校長の在り方	(1)学び続ける教職員を目指し、資質・能力の向上を図る研究・研修体制の充実 ----- (2)「チームとしての学校」への参画意識を高める研修の推進	後志
	8 リーダ 育 成	これからの学校運営を担うリーダーの育成と校長の在り方	(1)学校教育への確かな展望をもち、優れた実践力と応用力のあるミドルリーダーの育成 ----- (2)社会の変化に主体的にかかわり、自ら学び続ける管理職人材の育成	開催なし
Ⅳ 危機管理	9 学校安全	命を守る安全教育・防災教育の推進と校長の在り方	(1)自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進 ----- (2)家庭や地域・関係機関との連携・協働を図った組織的・計画的な防災教育に関わる取組の推進	檜山
	10 危機対応	様々な危機への対応、未然防止の体制づくりと校長の在り方	(1)いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり ----- (2)教職員の高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり	開催なし
Ⅴ 教育課題	11 社会形成 能 力	社会形成能力を育む教育活動の推進と校長の在り方	(1)社会の発展に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進 ----- (2)地域に愛着をもち、よりよい社会の創造に貢献する力を育むキャリア教育の推進	日高
	12 自立と 共 生	自立と共生の実現に向けた教育活動の推進と校長の在り方	(1)子どもの自立や社会参加に向けた特別支援教育の推進 ----- (2)多様な人々と協働する資質・能力を育む教育の推進	オホーツク
	13 社会との 連 携 協 働	家庭や地域等との連携・協働、学校段階等間の接続・連携の推進と校長の在り方	(1)家庭や地域等と連携・協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進 ----- (2)成長の連続性を生かした学校段階等間の接続・連携の推進	釧路市